

目的・目標

【目的】 マネジメントの標準化により、マネジメントの自己革新能力を醸成・強化する

【目標】 マネジメントの指針づくり

実現のためのアプローチ

- ① 企業活動を網羅的に捉え、残すべき優れたマネジメントと、時代に合わせて変えていくべきマネジメントを明らかにする
- ② ツール化したものによって自社の経営管理上の問題点を顕在化させ、全社一丸となって全体最適のための改善を行う

「標準化」とは

● 生産工程における「標準作業(Standardized Work)」と同じように、常に改善していくためのサイクルが機能すること(作業標準: Work Standardではない)

- ① 現状のやり方・実態を表(オモテ)に現す
- ② 問題点を徹底的に分析し、改善する
- ③ 新たなやり方として標準化する
- ④ それを新たな「現状」としてオモテ化し、一段上のレベル(例えば、もっと短いリードタイム、もっと少ない在庫量など)から見た問題点が発見する
- ⑤ 改善し、新たなやり方として標準化する

作業の標準化と同様に、経営管理についてもこのサイクルを回し、レベルアップを目指す

「網羅的」とは

【第1分類項目】 7 + 7 → 14

● 企業活動を「プロセス」と「機能」の両面から捉える

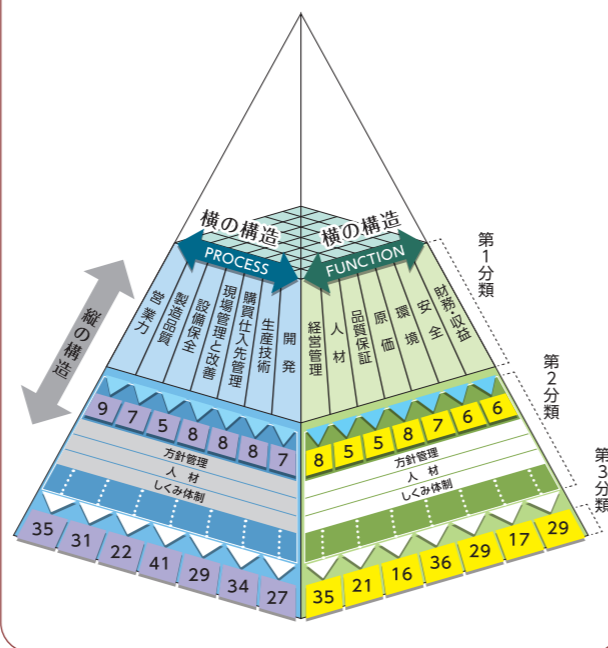
【第2分類項目】 52 + 45 → 97

● 基本的なマネジメント要素にブレイクダウン

【第3分類項目】 219 + 183 → 402

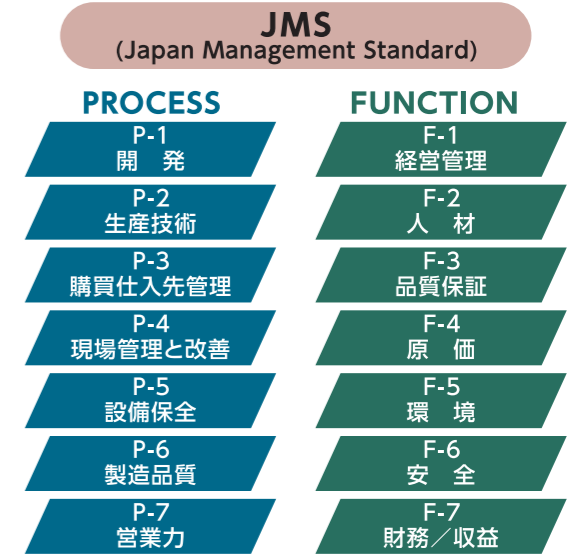
● 第2分類項目を有効に機能させるために必要となる管理ポイントを網羅

● 総数3,565個のチェック項目で構成



【第1分類項目】

第1分類項目は、モノづくりの基本的なプロセスに沿った7つの項目(右記「P(=Process)」)と、機能的な側面から成り立つ7つの項目(右記「F(=Function)」)の計14項目で構成されている。



【第2分類項目】

第1分類項目を、基本的なマネジメント要素で分解したものが第2分類項目である。「方針管理」「人材」「しくみ体制」といった共通項目と、その分野固有の項目で成り立っている。

